

令和3年度
学校関係者評価報告書

学校法人 佐藤栄学園
専門学校 埼玉自動車大学校

1. 目的

学校関係者評価は以下のことを目的として実施するものとする。

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。
- ③学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。

2. 学校関係者評価委員

遊間 尚美	保護者	埼玉自動車大学校親交会	会長（委員長）
桑原 恵美子	保護者	埼玉自動車大学校親交会	副会長
黒土 明穂	保護者	埼玉自動車大学校親交会	副会長
細井 和弘	第27期卒業生	株式会社K-STAGE	
原島 政幸		有限会社Car Body Shop Vicky	代表取締役

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

- ・日時：令和4年5月20日（第1回委員会・書面会議）
令和4年6月3日（第2回委員会・書面会議）

4. 学校関係者評価委員会報告（評価する点、改善点、要望等）

（1）教育理念・目的・育成人材像

- ・世の中が激しく変動しているなか、若人には未来を常に創造する心と力を養い、自分たちの可能性を信じ、人間性を豊かに育ててほしいと期待している。

（2）学校運営

- ・新型コロナウイルスの影響が長引くなかでの教育運営は困難を極めるものと思う。情報システム等の効率化が重要となる。これまで普通に行なわれてきたことが停滞しないように望む。

(3) 教育活動

- 自動車の構造が大きく変わりつつあり、最新技術を身につけることが大事になってくる。実際に最新の技術等にふれられる機会が増えることを期待する。
- 新型コロナウイルスの影響で様々な分野でも実技・実習が難しくなっている昨今、身近な企業、施設での体験を通じ実践することで学生の可能性を見出してもらいたい。

(4) 学習成果

- 特殊な技術を得て社会に、企業に貢献できるよう、尚且つ自分自身の未来を築くために、卒業生情報は必須である。集会、交流が難しい状況ではあるが、学生の向上心を育てるものと確信している。

(5) 学生支援

- 新型コロナウイルスの影響により、リモートでの面接が多くなっているようである。リモート面接の支援の強化をお願いしたい。学校内でのリモート面接開催場所等の確保、面接にあたっての諸注意等、きめ細かい指導が求められている。
- 学生各々が希望をもち入学した当初を懐古し、卒業後も情熱をもって社会に貢献していくことができるよう、経済的にも心身ともに充実した環境で学業に励むことのできるようしてもらいたい。

(6) 教育環境

- 国内外での予想だにできなかった様々な出来事に対して、冷静に判断し世界情勢への関心から自信とその周囲、世界全体も含め今自身に何ができるのかを考えてほしい。

(7) 学生の受入れ募集

- 近年の少子化からの影響もあり、厳しい状況のなか、女子学生の入学は大変喜ばしいこと。これからも毎年、女子学生獲得への関心を維持しながら、継続的入学生の確保を希望する。
- OB、OG等からのアドバイスを仰ぐ等、本校の魅力はどこにあるのか、どの部分が満足とはいえない状況であるのか。技術や資格の取得だけではなく、卒業後社会人となった後も豊かな心をもって多様性に目を向けることができるような学生を育てる取り組みも必要なのではないか。

(8) 財務

- 大前提として学生募集が上手くいかないことにはなににもできない。また、必要経費の見直しも検討するべきであろうと考える。

(9) 法令等の遵守

- 個人情報の取扱いに関しては、制約等もあり年々難しくなっている。セキュリティの強弱も含め、一考の必要がある時期に差し掛かっているのではないか

〈令和3年度の実施状況〉 意見・改善点

- 学生一人一人の個性を生かし、世界にも関心を持ち、自分たちは何とどのように向き合っていくべきなのかが見極められる人間育成を期待。周囲がサポートしつつより良い状況となるよう願っている。
- 礼儀正しく素直な学生が多い。教職員も感じがいいと思う。環境も整えられており、素晴らしいと感じている。

以上